令和８年度（２０２６年度）久留米大学病院臨床研修医募集要項

【基礎研究医コース】

基礎研究医コースの募集及び採用の決定は、医師臨床研修マッチング前に行います。

１．応募資格　令和８年度（２０２６年度）医師免許取得予定者及び平成１６年４月以降に医師免許を取得した者
久留米大学基礎医学講座にて基礎研究を行い、臨床研修後４年以内をめどに、基礎医学の論文を臨床研修管理委員会に提出する者

２．募集人数　基礎研究医コース　　１名

３．研修内容　久留米大学病院は基幹型臨床研修病院であり協力病院、施設と臨床研修病院群を形成しています。
１年次は必修科を含め、研修修了の到達目標となっている経験症例を多く経験できる診療科を集中的に研修し、基礎医学講座において研究活動を行う期間は、２年次臨床研修期間の後半の２０週とします。なお、基礎医学研修を開始する前に、臨床研修の到達目標の到達度の評価を行います。

４．処　　遇　(1) 常　勤
(2) 給　与：約２９万円（１年次）※手当含む　年棒約３５０万円
約３１万円（２年次）※手当含む　年棒約３７０万円
勤務時間：８：３０～１７：００
※１日につき 7 時間 30 分、１週間あたり 40 時間の範囲内において定めるものとする。
休　　暇：・日曜日　・大学が指定した日（基本的には、土曜日）
・国民の祝日に関する法律に定める日
（祝日に開院する場合があり、その場合は振替休日取得にて対応する。）
・年末（12 月 29 日から同月 31 日まで）、年始（１月２日及び３日）
・特別休日（8 月 15 日）
(3) 原則として、時間外勤務は行わない。指導医と、週 1 回程度の宿直（手当有り）。
(4) 外部の研修活動（学会、研究会）への参加可。
(5) 宿舎有り（家賃月額：２０，０００円）。保育所・病児保育施設有り。
(6) 私学共済保険、労働者災害補償、雇用保険有り。
(7) 定期健康診断有り。
(8) 医師賠償責任保険は任意加入。

５．採用予定日：令和８年度（２０２６年）４月１日

６．申請書類　(1)臨床研修申請書(様式３)
(2)履歴書(様式２)
(3)卒業見込証明書または卒業証明書
(4)成績証明書　(※GPA が記載されたものがあればそちらも提出ください)
(5)共用試験医学系 CBT 個人別成績表写し（※本試験）

７．申請書類提出期限　**２０２５年（令和７年）１２月末日**　※応募状況により、募集期間を延長することがあります。

８．選考方法　**書類選考・面接**

９．選考日　**応相談**

１０．選考結果　書類審査及び面接にて選考し、選考結果を応募者に通知する。

（ 申請書類送付および問い合わせ先 ）　久留米大学病院　臨床研修センター
〒830-0011　福岡県久留米市旭町６７番地　E-mail　kensyu_c@kurume-u.ac.jp
TEL　０９４２－３１－７５０３、FAX　０９４２－３１－７９１３

令和8年度 久留米大学病院 臨床研修プログラム

基礎研究医コース：定員1名

※地域医療・一般外来研修期間は基幹型臨床研修病院で研修を行ったものとみなす。

1年次	2か月（8週）		2か月（9週）		2か月（9週）		2か月（10週）		1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）
	内 科（久留米大学病院・久留米大学医療センター）		内 科（久留米大学病院・久留米大学医療センター）		内 科（久留米大学病院・久留米大学医療センター）		救 急（久留米大学病院）		外 科（久留米大学病院）	選択科	麻酔（救急）（久留米大学病院）	選択科
2年次	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（6週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（4週）	1か月（6週）
	小児科（久留米大学病院・聖マリア病院・久大医セ）	産婦人科（久留米大学病院）	精神科（久留米大学病院・筑水会・聖ルチア・のぞえ）	一般外来（久大医セ・田主丸中央・ヨコクラ・JCHO久留米・朝倉）	地域医療（筑後川温泉病院・嶋田・神代・久留米ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・菊池・内藤）	選択科	基礎医学	基礎医学	基礎医学	基礎医学	基礎医学	選択科

【必修】

内科：久留米大学病院(呼吸器・神経・膠原病、消化器、心臓・血管、腎臓、内分泌代謝、血液・腫瘍)、久留米大学医療センター

救急：久留米大学病院

外科：久留米大学病院（心臓血管、呼吸器、乳腺・内分泌、肝臓・胆嚢・膵臓、消化管、小児）

麻酔科：久留米大学病院

小児科：久留米大学病院、聖マリア病院

産婦人科：久留米大学病院

精神科：久留米大学病院、筑水会病院、聖ルチア病院、のぞえ総合心療病院

地域医療：筑後川温泉病院、嶋田病院、神代病院、久留米リハビリテーション病院、菊池郡市医師会立病院、内藤病院

一般外来：久留米大学医療センター、田主丸中央病院、ヨコクラ病院、JCHO久留米総合病院、朝倉医師会病院

【選択科】 久留米大学病院の下記の各研修科及び協力病院より自由選択。

久留米大学病院

内　科　［呼吸器・神経・膠原病、消化器、心臓・血管、腎臓、内分泌代謝、血液・腫瘍　］

外　科　［心臓血管、呼吸器、乳腺・内分泌、肝臓・胆嚢・膵臓、消化管、小児　］

麻酔科、 救命救急、 小児科、 産婦人科、 精神神経科、 整形外科、形成外科・顎顔面外科、

脳神経外科、 皮膚科、 眼科、 泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線科、

病理診断科、がん集学治療センター、感染制御科、外科系集中治療部、臨床検査部

内　科：久留米大学医療センター、公立八女総合病院、大牟田市立病院

外　科：大牟田市立病院、JCHO久留米総合病院

救　急：聖マリア病院

麻酔科：久留米大学医療センター、大牟田市立病院

小児科：聖マリア病院

産婦人科：聖マリア病院、小倉医療センター

精神科：筑水会病院、聖ルチア病院、のぞえ総合心療病院

整形外科：久留米大学医療センター

漢方診療：久留米大学医療センター

総合診療科：久留米大学医療センター

被災地研修：岩手県立大船渡病院

【基礎医学】<u>※基礎研究医コースのみ選択可</u>

基礎医学講座

解剖学講座(肉眼・臨床解剖部門)、解剖学講座（顕微解剖・生体形成部門)、生理学講座(脳・神経機能部門)、

生理学講座(統合自律機能部門)、医化学講座、薬理学講座、病理学講座、感染医学講座（真核微生物学）、

免疫学講座、環境医学講座、公衆衛生学講座、法医学講座

【基礎研究医コース】概　要

久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

Ⅰ.一般目標(General Instructional Objective)

本プログラムでは、基礎医学を志す医師の減少に歯止めをかけるとともに、我が国の国際競争力を強化するため、キャリアパスの構築までを見据えた体系的な教育／研修を実施することにより、優れた基礎研究医の確保や基礎研究の強化を図ることを目的とする。
２年間の臨床研修期間において、医師として人格の涵養に努め、基本的診療能力を身につけながら、基礎医学講座において研究活動を行う。基礎医学講座においては基礎研究医としての基礎学力・専門知識を養い、医療人としての自覚を促し、生命の尊厳、医の倫理についての考えを深めながら、創造的かつ包括的な視点を持った研究医の基盤構築を図る。

Ⅱ.行動目標(Specific Behavioral Objectives)

１.医師として人格の涵養に努め、基本的な医療の知識・技能・態度を身につける。
２.プライマリケアを含めた幅広い豊富な症例を経験し基本的診療能力を高める。
３.基礎医学における研究に取り組む。
４.基礎医学分野における論文を作成する。
５.基礎医学分野における学会にて発表の機会を設ける。
６.基礎学力・専門知識を養い、医療人としての自覚を促し、生命の尊厳、医の倫理についての考えを深める。

Ⅲ.方略(Learning Strategies)

オリエンテーション
研修プログラム開始時に、所属する基礎医学講座を次頁講座より決定し、オリエンテーションを行う。

基礎医学における研究期間
基礎医学講座において研究活動を行う期間は、臨床研修到達目標をある程度到達し臨床研修修了が見込める２年次臨床研修期間の後半の２０週とする。なお、基礎医学研修を開始する前に、臨床研修の到達目標の到達度の評価を行う。

基礎医学研究
基礎医学講座での研究期間は研究指導医(指導者)と共に研究テーマを探索する。研究においては毎週のカンファランスにおいて研究の進捗状況を発表し、テーマに沿った研究を行い結果を導き出す。限られた研究期間ではあるが基礎的、論理的な思考を行い科学的素養を身につける。

論文指導
研究テーマに応じた研究を行い、結果に従って論文を作成する。論文作成においてはまず最初に文献検索を始め論文作成に必要な知識を修得する。研究テーマに関連した論文を探し抄読会にて紹介する。指導医(指導者)による指導のもと論文を作成する。なお、論文提出は研修修了後の4年以内に行う。

学会発表(2024～2026年度の基礎医学における学会総会開催日程)
○日本解剖学会　《2025年3月17日(月)～19日(水)》
○日本生化学会　《2026年12月1日(火)～12月4日(金)》
○日本生理学会　《2025年3月17日(月)～19日(水)》
○日本薬理学会　《2025年3月17日(月)～3月19日(水)》
○日本病理学会　《2026年4月16日(木)～18日(土)》
○日本細菌学会　《2024年8月7日(水)～9日(金)》
○日本免疫学会　《2025年12月10日(水)～12月12日(金)》
○日本産業衛生学会　《2025年5月14日(水)～17日(土)》
○日本公衆衛生学会　《2024年10月29日(火)～31日(木)》
○日本法医学会　《2025年6月11日(水)～13日(金)》
など

Ⅳ.評価(Evaluation)

基礎医学期間中、論文の作成について指導を受け、臨床研修後４年以内に作成した基礎医学の論文を臨床研修管理委員会に提出する。
また臨床研修修了後に、到達目標の達成度と臨床研修修了後の進路を管轄する地方厚生局に報告する。

Ⅴ.週間予定

月	AM	基礎医学研究
	PM	基礎医学研究
火	AM	基礎医学研究
	PM	基礎医学研究
水	AM	基礎医学研究
	PM	基礎医学研究
木	AM	基礎医学研究
	PM	基礎医学研究
金	AM	基礎医学研究
	PM	基礎医学研究

Ⅵ.研修修了後のキャリアパス

本プログラムにおけるキャリアパスとしては、臨床研修終了後に基礎・臨床融合教員として基礎医学講座で研究活動を継続しつつ、大学病院での臨床活動も合わせ行い、また国内・海外留学など自己の希望に沿った多様なキャリアを形成することができる。
臨床研修修了後も基礎・臨床の垣根を取り払った Clinician Scientist として、基礎医学講座にて研究活動を行いながら、自己の特性や興味の対象を見極め、職責等を勘案しつつ基礎研究と臨床活動のバランスを調整してゆく。
本プログラムでは研究に対する自己の可能性を見極めた上で将来的に最終進路を決断できるため、将来に不安を感ずること無く研究への第一歩を進むことができる。

【基礎研究医コース】概　要

久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

解剖学講座（肉眼・臨床解剖部門）

研究について
特に本部門では、血管系の肉眼解剖学的研究を中心とし、系統解剖学実習中に発見された変異例の解析や実験動物において発生学的に各種器官の血管形成過程の解析等を行っています。中でも鎖骨下動脈や内腸骨動脈の研究は長年にわたる実績があります。さらには所属スタッフ個別のテーマとして運動器の形態学、脳下垂体の形態形成、鼻涙管、唾液腺、咀嚼筋等の肉眼および臨床解剖学的研究を実施しています。

教育について
本部門では、医学の基礎である人体解剖学の講義と実習を大学および大学院を対象として行っています。医学科および看護学科第1学年においては人体の基本構造についての講義を実施し、続く第2学年時には御献体によりお預かりした貴重な御遺体を対象とした人体系統解剖学実習を行っています。またこれら実習と講義の中では、御献体登録者の方々が所属する「りんどう会」の総会への参加や御遺体慰霊祭への参加も行い、医療人としての自覚を促し、生命の尊厳、医の倫理についての考えを深めます。

解剖学講座（肉眼・臨床解剖部門）ホームページ
https://nikugan.sakura.ne.jp/

生理学講座（統合自律機能部門）

研究について
当部門では、イオンチャネルを対象として、心臓循環器系では不整脈の分子機構、中枢神経系では神経障害性疼痛の分子機構や自発発火ニューロンによる情報処理機構について研究をおこなっています。遺伝子改変動物を積極的に導入し、教室伝統の電気生理学にとどまらず、オプトジェネティクスやイメージング、転写因子レベルでの分子生物学を駆使した最先端の研究を展開しています。

教育について
脳・神経機能部門と密接に連携をとりつつ、生理学全般の学生教育を担当しています。生理学は単なる丸暗記ではなく、「考えて理解する」要素が多いため、実習を重視しています。大学院では単に学位を取得するだけではなく、将来研究者として自立できる能力を養うことをめざしています。

生理学講座（統合自律機能部門）ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/physiol2/

解剖学講座（顕微解剖・生体形成部門）

研究について
発生学、内分泌学、分子生物学をキーワードに、生殖に関わる様々な組織の形成過程を解明すべく、形態と機能の両面から解析をおこなっています。特に、これらの組織に共通して発現する核内受容体型の転写因子に着目し、遺伝子発現制御という視点から細胞レベル、分子レベルで組織形成プロセスを解明することを目指しています。同時に、先端イメージング研究センターと連携し、共焦点レーザー顕微鏡や電子顕微鏡を用いた微細構造の解析を行い、細胞の機能と構造を関連づけて理解することを目指しています。

教育について
正常人体の形態全般（細胞学・組織学・解剖学）にわたる講義・実習を担当しています。医学科第1学年前期の「医学入門実習」、後期の「組織学実習」「人体の構築I（内臓機能）」、そして第2学年前期の「神経科学（生理学講座と連携）」「個体の発生」を担当しています。さらに、第3学年RMCPを通じて、学生のリサーチマインド開拓を目指しています。大学院教育は修士・博士課程ともに講義を担当しています。

解剖学講座（顕微解剖・生体形成部門）ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/anat2/

生理学講座（脳・神経機能部門）

研究について
中枢神経系（脳・脊髄）の機能はまだ分からない事が多く、その意味では、中枢神経系は人類に残された最後の開拓地かも知れません。私たちは脳機能に興味を持つ者が集まって、電気生理学的、生化学的、および分子生物学的手法を用いて以下に掲げる主な研究課題について日夜研究を続けています。

(1)虚血性神経細胞死の発生機序の探求と治療法の検索
(2)大脳前頭前皮質に対するドーパミンの作用と統合失調症との関係
(3)神経細胞とグリア細胞間の相互作用

教育について
大学における成人教育では、学生自ら不思議だと思った事、将来必要で大事だと思ったことを自ら学び取れるように私たち講師陣が支援して参ります。現在、医学部学生には生理学全般（腎、肺、血液、内分泌、および中枢神経機能）の講義と実習を行っています。大学院生には高次脳機能と電気生理学的手法の講義と実習を行っており、当部門の大学院生には実験計画立案、実施、結果検討および論文執筆まで一人行えるようman to manで指導して参ります。

生理学講座（脳・神経機能部門）ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/physiol1/

【基礎研究医コース】概　要

久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

病理学講座（旧1病理）

研究について
病理学講座は、1998年に第一講座と第二講座が統合されましたが、研究体制は独自性を維持しております。旧第一講座では、肝臓病理を研究主題とし、生検組織、外科切除組織、剖検組織を用いた肝腫瘍、肝結節性病変、肝炎、肝血流異常などの病理形態学的研究、肝癌組織や培養肝癌細胞株と免疫組織化学的・生化学的・分子生物学的手法を用いた肝癌の実験病理・分子病理的研究を行っていますが、もちろん、肝病理の研究の他、学内外で膵臓、乳腺、婦人科、泌尿器科病理などの研究も熱心に行っています。

教育について
病理学講座では、卒前教育については、第1学年の医学入門実習、選択制セミナー、第2学年の原因と病態（1）、第3学年の原因と病態（2）（実習を含む）、第4学年の臨床実習開始前総括講義、第5学年のクリニカルクラークシップ、第6学年の卒前医学教育総括講義など、全ての学年の教育に関与していますが、学年に応じた最適な病理学の教育を行っています。卒後教育については、病院病理部での前期及び後期研修医の研修に協力しております。また、病理学的研究により医学博士の学位取得を目指す大学院博士課程の学生の教育・指導にも熱心に取り組んでいます。

病理学講座（1）ホームページ
https://pathology1.kurume-univ.jp/

病理学講座（旧2病理）

研究について
教室の病理診断・研究の分野の主体は、血液病理、脳神経病理で、さらに、血管、炎症、免疫、腫瘍一般と多岐に渡っています。診断の例を挙げると、悪性リンパ腫は、全国より、コンサルト依頼が来ています。研究の例では、レーザーにより、病変だけを抽出し、マイクロアレー解析によって得た遺伝子発現プロファイルデータの綿密なバイオインフォマティクス解析を通じ、炎症や腫瘍の個性の描出や、局所の腫瘍免疫の解析を通して、テーラーメイド医療の実現につながる成果をあげるための研究を行っています。

教育について
本教室では卒前教育として2,3年生の病理学総論および各論（循環器、血液、消化器、神経、軟部腫瘍など）の講義、病理学実習及び5年生でのクリニカルクラークシップを担当しています。卒後教育の中心は大学院です。現在、4名が大学院在学中です。また本教室では卒後教育の一環として病理の専門医を目指す人のための教育カリキュラムが用意されており、日本病理学会専門医および日本臨床細胞学会専門医の資格取得が可能です。

病理学講座（2）ホームページ
https://pathology2.kurume-univ.jp/

医化学講座

研究について
本講座では、金属酵素を研究の対象としており、特に、ヘム代謝系の律速酵素であるヘムオキシゲナーゼと、ペプチドホルモンの生合成に与るペプチドC末端アミド化酵素について、組換タンパクの発現や部位特異的変異の導入などの遺伝子工学的手法に加え、X線結晶構造解析や電子スピン共鳴(ESR)を中心とした分光学的解析、厳密な嫌気実験やストップトフローによる速度論的解析など、多くの生化学的、物理化学的手法を用いて、当該酵素の反応機構と生理的意義の解明に取り組んでいます。

教育について
生化学とその関連領域の学問は、急速な進歩を続けており、多くの生命現象が生化学的に説明されるようになりました。それに伴い、医学、医療の現場にも新しい知識や技術が導入されています。こういった医学領域における生化学の新知見に対応できるよう、講義と実習を通して、生体の構成物質の化学とその代謝および調節についての基礎を学び、生命現象のメカニズムとその病態を分子レベルで考察する力を養い、将来の臨床医、医化学研究者及び教育者としての基盤づくりを行っています。

医化学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/ikagaku/

薬理学講座

研究について
中枢神経の機能、特に神経伝達物質を介した神経機能調節メカニズムに関する研究を行っています。神経薬理、神経化学および行動薬理学の手法に加え、免疫組織化学、分子細胞生物学の手法を用いて研究に取り組んでいます。主な研究プロジェクトは、ドーパミン神経伝達、神経再生、薬物依存に関する研究およびマイクロダイアリシスを用いた中枢神経ネットワーク解析です。中枢神経薬理に興味のある大学院生を募集しています。

教育について
薬理学は難しいという学生諸君の話をよく耳にしますが、この薬はなぜ効くのか、なぜ副作用が現れるのかなど薬物治療の本質を追求してみると、これほど面白い学問はありません。単に薬の名前や作用を丸暗記するのではなく、薬の作用をヒトの体、臓器、細胞、分子レベルで考えてみましょう。薬理の研究は日々進んでいます。次々と新しい発見に遭遇できる薬理の勉強を楽しみましょう。

薬理学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/pharm/

【基礎研究医コース】概　要

久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

免疫学講座

研究について
2014年2月、米国ハーバード大学より溝口充志が久留米大学医学部免疫学講座の主任教授に着任しました。当講座では、「おなかの健康免疫」をメインテーマとし、遺伝子操作マウス等を駆使した様々な基礎研究を実施しています。今後、基礎研究成果を臨床に直結させ、消化器疾患をはじめとする種々の疾患の未だ不明な原因メカニズムを究明し、それら疾患の根治治療を目指すための橋渡し免疫学「トランスレーショナルイムノロジー」を実践していきたいと考えています。

教育について
医学部ならびに臨床検査専門学校等における「免疫学講義」ならびに「免疫学実習」をはじめ、各種セミナーや大学院教育等にも積極的に取り組んでいます。特に「和」の精神を尊重し、グローバルに活躍する医療スペシャリスト・研究スペシャリストの育成には力を入れており、ハーバード大学をはじめとする海外教育研究機関との研究交流も積極的に進めています。

免疫学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/immun/

環境医学講座

研究について
研究分野は産業医学、環境医学、地域保健・医療の三分野。産業医学では、本講座に連綿と続く伝統的な研究テーマである振動病（職業性疾病）について、病態生理に関する基礎的研究から診断治療の臨床研究まで幅広く行っています。また、小規模事業場の産業保健の向上のために、現場の作業環境の改善に焦点を当てたフィールド研究を重視している。環境医学では、大学病院の「環境病」外来を活用して、シックハウス症候群、化学物質過敏症の病態生理、診断、治療に関する研究を行っています。地域保健分野では失業の労働者に及ぼす健康影響に関するフィールド研究や行政施策の健康影響評価（Health Impact Assessment）に関する研究を行っています。

教育について
教育面では2005年度より公衆衛生学講座と連携して、従来別々に行っていた講義を「医学・医療と社会」の教科名で、モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラムを実践しています。また、「社会医学実習」ではスモールグループによるテーマ研究を組み込み、社会医学・医療に関連したテーマについて自己学習を行い、学生へのPublic Health Mindの育成に努めています。

環境医学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/envi/

感染医学講座（基礎感染医学）

研究について
臨床の現場では、薬剤耐性菌の出現により感染症治療、病棟管理等において種々の問題に直面しています。私たちの研究室では、細菌感染症における微生物とヒトの相互作用について分子レベルを基盤として理解に努め、抗生物質に依存しない有効な感染症治療手段および感染症予防法等を模索しています。近年、研究対象として、マイコプラズマと宿主（ヒト）の免疫応答、および緑膿菌の産生するプロテアーゼの病原性等について精力的に研究を行っており、その成果を国際的ジャーナルへ発表しています。さらに、興味ある方は、教室のホームページ、あるいは研究者紹介をご参照下さい。

教育について
教育では、医学科の第2学年の学生へ「生体と微生物環境」科目の中で、細菌学の講義、および実習を担当しています。医学科の講義であることを念頭に置き、ヒトの感染症の病態理解、診断、治療等を中心に講義をしています。また、博士、修士課程の大学院生に対して、学習したことを実践の臨床現場へ還元できるよう、感染症例を中心に講義、演習等を行います。さらに、学位取得のため、基本的に教室で取り組んでいる研究課題を中心に、実験、および論文作成指導等をします。大学院へ興味ある学生さんは、是非とも教室のホームページ、あるいは研究者紹介をご参照下さい。

感染医学講座（基礎感染医学）ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/micro/

感染医学講座（真核微生物学）

研究について
ヒトには、感染しないモデルトリパノソーマ原虫を用い、遺伝子の破壊、導入などの手法を用い原虫のヒトとは異なったシグナル伝達経路を模索し、それと多少類似するヒトのシグナル伝達経路阻害剤のトリパノソーマ原虫への効果を検討しています。さらに、ヒトのタンパクがトリパノソーマ原虫で、どのような機能をしているかということを調べています。トリパノソーマ原虫は最古の真核生物であるとされており、そのシグナル伝達様式はヒトとあまりにも異なっていたためモデル生物とはならない、といわれていますが、我々はあえて、それに挑戦しています。

教育について
臨床医を育てる教育をします。学生さんの多くはよき臨床医を目指しています。まず、問診、視診、触診、打診などが、CT, エコーなどより先にすることであることを、どの寄生虫疾患を教えるときにも強調しています。
病態生理を中心に講義をします。寄生虫疾患は重要であるにも関わらず国試にあまり出題されないとされていますが、私たちの講座では、他の分野でも役立つ病態生理を中心に講義をしています。

感染医学講座（真核微生物）ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/para/

【基礎研究医コース】概　要

久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

公衆衛生学講座

研究について
診療報酬明細書（レセプト）を代表とする、保健医療福祉領域のビッグデータ分析を中心に取り組んでいます。20年以上前からレセプト分析を行っている経験を活かし、市町村国民健康保険、健康保険組合、後期高齢者医療制度広域連合など様々な保険者と協働しています。具体的には、地域・職域における健康づくり活動のエビデンス構築や、「国民医療費」・「患者調査」などの厚生労働省所管の統計調査の精度向上に関する研究などを行っています。

教育について
学部教育においては、疫学、社会保障制度論、行動科学を主に担当しています。医学部医学科においては、人口動態統計、患者調査、社会医療診療行為別統計等の関連統計を活用した医療機関経営シミュレーション実習を通して、保健医療福祉の各種制度や医師法・医療法などの関連法規に関する参加型学習を推進しています。大学院では、因果推論や傾向スコアなどのビッグデータ分析に関する基礎理論の学習とレセプト分析等のリアルワールドデータを用いた研究指導を行っています。

公衆衛生学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/pubh/

法医学講座

研究について
当講座ではDNA配列の個人差である遺伝子多型（たけい）の研究、具体的には、
（1）ハプトグロビン欠損症などの輸血副作用原因遺伝子の同定とスクリーニング法の開発
（2）血液型合成に関与する糖転移酵素遺伝子及び皮膚色等の形態差に関与する遺伝子の多型及び機能解析
（3）自然選択標的遺伝子及び疾患感受性候補遺伝子の同定と多型解析
（4）これらの遺伝子多型を用いた過去の人口移動、人口構造、人口動態の推定、などをおこなっています。

教育について
法医学は医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学です。当講座では一般医が遭遇する機会の多い案件に関し法医学的基礎を学び、自ら処理可能か法医専門家に委ねるべきかの判断能力、医師・患者間の関係を支える基本原則、患者・被検者の保護法益についての認識、一般医に必要な血液型、人類遺伝学に関する素養を教育します。

法医学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/foren/

感染制御学講座

研究について
当教室は久留米大学病院において海外旅行外来、感染症外来および感染制御部を担当しており、マラリアやデング熱などの輸入感染症を含めた感染症診断や院内感染対策に関する研究を行っています。また国内外の施設との共同研究も積極的に行っており、インフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、C型肝炎ウイルスなどのウイルスに関する研究や呼吸器病原細菌が産生するバイオフィルムの研究などを実施しています。

教育について
当教室はWHO (世界保健機関)のGlobal outbreak alert and response networkに登録しており、今後世界的に脅威となる新たな感染症の発生が起こった際には、WHOとも連携することにより国際貢献となる仕事も行っていく予定です。前述の様な海外との国々との共同研究を含めた幅広い感染症の研究・臨床を行い、かつその成果をもとにした時流にあった感染症教育を行うことにより、国際的な視野を持ち、国内外で活躍できる人材を育てていきたいと願っています。

感染制御学講座ホームページ
https://www.med.kurume-u.ac.jp/med/virol/jp/index.html

疾患モデル研究センター

久留米大学医学部疾患モデル研究センター（旧・動物実験センター）は、昭和45年、本学における基礎および臨床研究に携わる関係者の動物実験の効率化、標準化等に対する強い要望により創設されました。爾来、本学の医学研究および学生教育等に多大な貢献をしてまいりました。現在も、動物実験を通して人類の健康に寄与するため基礎･臨床医学および生命科学分野における研究が日々行われています。
また、動物実験は他の科学実験とは異なり、生命ある実験動物を用いています。ついては、本センターは、全世界の研究者の適正な動物実験のよりどころであり、世界各国の動物実験に関する法規の骨格となっている３R（Replacement；代替法の利用、Reduction；使用動物数の削減、Refinement；苦痛の軽減）の原則を徹底し、動物福祉に配慮した運用を行っております。このように、本センターは実験動物の適正な取扱いに関する教育・啓蒙活動を行いながら利用者が快適に利用でき、基礎･臨床医学・生命科学の分野の発展に寄与できる施設を目指しております。

先端イメージング研究センター

久留米大学医学部先端イメージング研究センターは、2016年6月より旧電子顕微鏡室・共焦点レーザー顕微鏡室を統合し、共同利用機器の管理・運営だけではなく、独自の研究・久留米大学内および学外の研究者に対し研究支援・共同研究・教育を行います。